

『中学生に読んでほしい30冊』の中から20冊



夜のピクニック 恩田陸 作

夜だから、いつものみんなも違って見える。私も少し、勇気を出せる。10代の時に出会いたかった本と言われる作品です。

3



星の王子さま サン＝テグジュペリ 作

心の砂漠がオアシスに変わる。世界中で愛された魔法の1冊。

2



蜘蛛の糸・杜子春 芥川龍之介 作

けっしてふりむいてはいけない、そんな時がきたときは……。



夏の庭 -The Friends- 湯本香樹実 作

死んだ人って見たことある？ 怖いけど見たい。知りたいことは知りたいんだ。



博士の愛した数式 小川洋子 作

記憶力を失った博士との幸福な日々。せつない、奇跡のラブストーリー。

3



車輪の下 ヘルマン ヘッセ 作

この冬、ぼくは彼女にキスしたんだ。著者ヘッセの自伝小説です。

1



楽隊うさぎ 中沢 けい 作

毎日がプラス、プラス、プラス!! 吹奏楽に熱中する中学生の物語。



走れメロス 太宰治 作

友情すぎて泣ける。まっすぐすぎて泣ける。

2



精霊の守り人 上橋菜穂子 作

NHK (綾瀬はるか主演) やアニメでも放送されました。ハリボタを上回る壮大な冒険が待っています。



坊ちゃん 夏目漱石 作

”親譲りの無鉄砲で子どもの時から損ばかりしている”から始まる「坊ちゃん」は漱石初期の作品です。



あと少し、もう少し 瀬尾まいこ 作

たすきを繋ぐたび 僕らはすこし大人になった。あと少し、もう少し、みんなと走りたい。青春小説です。

1



潮騒 三島由紀夫 作

「その火を飛び越えて来い。その火を飛び越えて来たら」



十五少年漂流記 ジュール・ヴェルヌ 作

しなやかさとしたたかさ、そして仲間。子どもだけの力でどこまでやれるか。



号泣する準備はできていた 江國香織 作

号泣するほどの悲しみが不意におとずれても、きっと大丈夫、切り抜かれる……。



西の魔女が死んだ 梨木香歩 作

わたしのおばあちゃんは、魔女。透視術も予知力も不要。日々、驚くことの喜びを知っている、本物の魔女には。



注文の多い料理店 宮沢賢治 作

東北は行ったことがありますか？ 東北、岩手は、こんなにも、豊かで、美しく、面白いのです。



あしながおじさん ジーン・ウェブスター 作

背が高い。お金持ち。女の子が嫌い。彼について知っていることはこれだけ！ 最高に素敵なおじさん。ハッピーエンドが待っています。



赤毛のアン ルーシー・モード・モンゴメリ 作

美人じゃないけど最高にかワイイ！ アン。カナダのプリンスエドワード島の美しい自然も魅力です。

第9回 ワタシの一行大賞受賞作品

小林ここ(秋田県立秋田高等学校) 佐藤多佳子『明るい夜に出かけて』 【選んだ一行】 アブクのような約束でも欲しい時があるのかな。



まだスマホも持っていない幼い頃、転校してしまう友達と「きっとまた会おうね」と言った。県外へ進学する姉と「コナンの映画は毎年一緒に見ようね」と言った。全国の舞台で会えた憧れの人と「またこうして会いましょう」と言った。果たされた約束、果たされなかった約束。そして、これからどうなるのか誰にもわからない約束。先のことなんて、結局誰にもわからない。ならば、果たされない約束はすべて無意味なものなのだろうか。

軽い気持ちでする約束は、そこに少しの本気を混ぜて口にする。そんな淡い約束でも、ふと思い出せば支えられた。強くなれた。相手にとってもそうであればいいと思った。ちょっぴり元気になれる約束があること。その約束をする相手がいること。それがどれほど有り難いことであるか。先のわからない約束でも、無意味なんてことはな

「新潮文庫 中学生のためのワタシの一行大賞」.新潮社Hp.2022. https://www.shinchosha.co.jp/1gyou/index_09.html (参照2022-05-18). 配布した冊子の衣ページ目に載っています。よんでみてください。

ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー プレイディみかこ 作



「多様性について考える」内田校長先生が、入学式でお話しになった「誰かの靴をはいてみること」が載っています。

きみの友だち 重松清 作



「友だちって、なんだろう？」僕等はいつもその答えをさがしてる。

1 2 3 国語教科書スタンプラリー対象の本です。